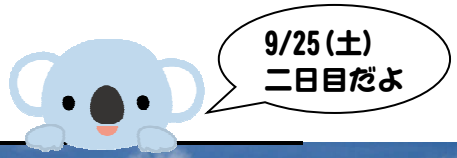
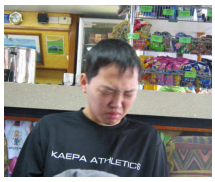


ケアンズ二日目。初日の疲れもなんのその、全員6時に起床し、徒歩で桟橋に向かう。早朝のケアンズは天気も良く、まだ人通りも少なくてとても気持ちが良い。

港のそばのリーフフリートターミナルで受付。ネットで予約はしていったが、頼んだオプション（サブマリン、グラスボトムボート等）や昼食の時間などは「当日案内」となっていた。英語で細かい事を言われても困るなと思っていたが、日本人のサブスタッフがいて助かった。港には大小様々な船が停泊していた。我々の乗る船はビックキャット。地元では老舗のクルーズ会社。



苦っ！
でも効いた

グリーン島まで約1時間。乗り込むとお茶と酔い止め薬のサービスがあったので頂く。この酔い止め薬は生姜ベースの結構大きなタブレット（親指の爪位）で二粒。一気に飲んでしまえればなんてことはないけど、粒が大きかったせいかなかなか飲み込めず「味わって」しまった利用者さんもいた。結構苦いものだったと思うが、1粒づつ飲んだので、それを2度味わって、苦～い顔を2回していた。でも、その薬のおかげか（それとも船の中で寝ていたせいか）船酔いすることはなかった。船のデッキに出ると風が気持ち良くて、景色も最高！港で海を見た時も綺麗だと思ったけれど、グリーン島に向かうに連れて、海の色が濃い青からエメラルドグリーンに変わって行く。途中でイルカが泳いでいるのもチラリと見えた。

予定よりちょっと時間がかかってグリーン島到着。先ずはビーチ！水着は着て来ていたので、日焼け止めを塗って、浮き袋を膨らませればOK！しかし、日焼け止めを塗るのに慣れていなかったり、浮き袋がかなり大きかったりで（空気入れは持っていったけれど）、意外にもここで時間をとられる。しかし、日本の7倍という紫外線を甘く見ることは出来ない。SPF50、PA+++の最強日焼け止めを全身に塗って、ラッシュガードも着用し、準備万端！ようやくビーチに向かう。

ビーチまでは歩いて2～3分。林を抜けるとそこにはガイドに載っているまんまの海！こんなに綺麗な海は見たことがない！ものすごい透明度！魚もたくさんいる！（足元をエイが横切る！）ハワイ、グアムの海も綺麗だと思ったけれど、ここはもっと綺麗！スゴイスゴイ！最初は様子を見ながら海に入っていた利用者さんも楽しそうに泳ぎだす。それほど深いところまでは行かなかったけれど、潮に流されたりして、結構沖まで行く。7倍の紫外線に海の冷たさが気持ち良い。ランチの時間が迫っていたけど、ギリギリまで海で遊んだ。

「もっと海にいた～い」とみんな言っていたけど、ランチビュッフェは終了間際。大急ぎで着替えて、急ぎ足で船に戻る。ランチタイム残り15分位。お皿に大盛りにしてみんなガッツリ食べる。お代わりもした！

少し休憩して、次はセミサブマリン（半潜水艇）。急な階段を下りると船底に二人がけの椅子が並んでいる。周りはガラス窓に囲まれ、その向こうはエメラルドグリーンの海。海を通った太陽光で船内もエメラルドグリーンに照らし出される。セミサブマリンが動き出すと海底にはグレートバリアリーフ（サンゴ礁）！。1mくらいあるデッカイ貝とかも。

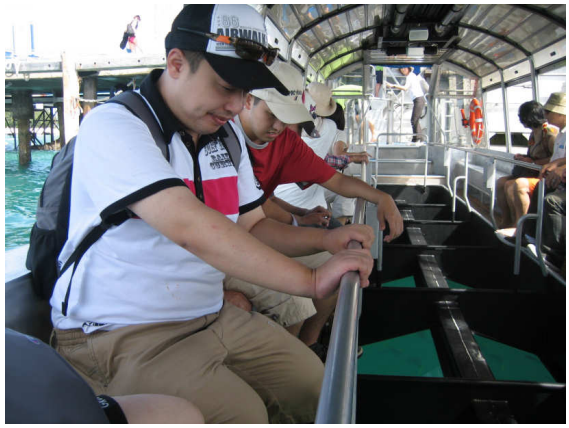
見て！この透明度！

セミサブマリン

そして色鮮やかな魚の群れが目の前に！みんな大興奮で歓声を上げながら、持ってきたカメラのシャッターを連射！数え切れないくらい綺麗な魚を間近で見て、みんな大満足。「明日はあいつを釣ってやるぜ！（明日はフィッシング予定）」と鼻息も荒い。

続いて、グラスボトムボート。横から見るか上から見下ろすかの違いはあるけれど、基本的にはセミサブマリンと同じようなもの。でも、こっちでは最後にウミガメが見えて大盛り上り！あと、こちらはオープンなボートなので潮風が気持ち良い。

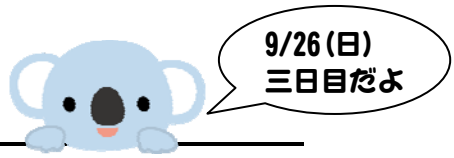
キレイな魚が目の前に！



グラスボトムボート

二つのオプションを楽しんだ後、ちょっと頑張ればもう一回ビーチにも行けたけど、みんなちょっと疲れたようなので島内でアイスクリームを食べて出航までゆっくり。通常のコースだとシュノーケリングとグラスボトムボートのセット。今回のメンバーはちょっと泳ぎが苦手な人もいたので、シュノーケリングをセミサブマリンに変えてもらっていた。でも、あの海あの魚は生で見てみたい。みんなでシュノーケリングの練習をしてまた来たい！と思ったグリーン島でした。

新井@ぴいす



フィッシングサファリ

ケアンズ三日目。昨日のグリーン島よりもさらに早い5時！起きで、今日はフィッシングサファリ。元々このフィッシングは今回の旅行のメニューには入っていなかったもの。でも旅行準備会でみんなで話し合って「少しお金がかかってもいいからやりたい！」ってことで追加で頼んだ。

前日にグリーン島であれだけの魚を見てはいやがうえにも高まる期待。桟橋までは昨日行ったのでそんなに時間はかからないとわかっていても、ついつい早く出発してしまう我々だった。

桟橋に着くといかにもそれっぽいボートがあった。きっとオレ達の乗る船に違いない。船長っぽいクリント・イーストウッド似の男に話しかけると「7:30 出発だから、5分前くらいに来てくれ」と言われる。することもないので泊まっている船などを見ながら時間をつぶす。売りに出ている船もあって、それを見ながら「おまえ買えよ」、「買ったら小遣いなくなるじゃねーか」、「やめてください」など他愛もないおしゃべりを楽しむ。

時間になり、再度ボートに行くと船長が待っていた。「彼らは知的障がいを持っている。」と話す（実際には英語で書いた紙を見せた）と「問題ない。よく来たな。」と握手で迎えてくれた。我々のほかに地元の親子も一緒に乗り、出発！先ずは釣りの餌をとりに行く。港を離れれるとスピードを上げるボート。船首がぐーっと上がって、水しぶきを派手に上げて進む。しばらく進み、河口っぽいところで、船長が投網を投げる。引上げると小魚がたくさんかかっている。これを餌にするということだ。何度か網を投げたくさんの餌をとった後は、場所を変えて、いよいよ我々の釣りが始まる。小さい魚はそのまま、少し大きな魚は切り身にして釣り針にかける。魚だけでなくイカも餌にしていた。餌を海に投げ入れた後は、船に竿を立てる穴が開いているのでそこに竿を立てて、当たりが来るのを待つ。天気は少し曇りで、ちょっと肌寒いくらい。釣り好きな人にはどうかは知らないけれど、ただ待つ時間は長い。引いてもいないのに頻繁にリールを巻き取って餌を確認してまた投げ込む人、一人でなにやら楽しそうにつぶやく人、寝て待つ人、待ち方は様々。

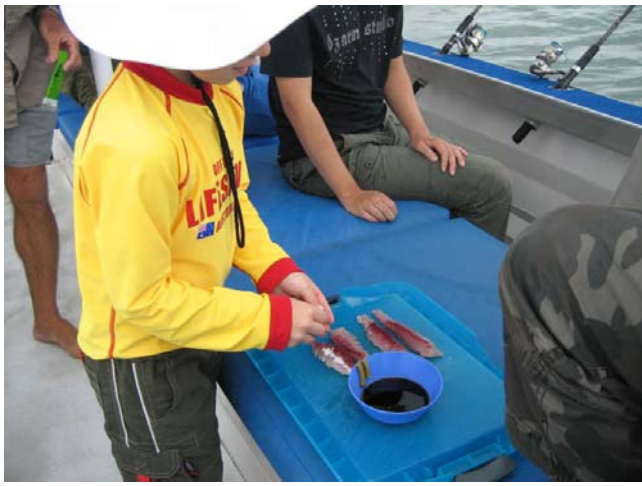
しばらくすると船長が「かかってるぞ！巻け巻け！（英語がわからないけど、たぶんそんな感じ）」と言って竿を取り上げ、利用者さんに渡す。慣れない手つきでリールを巻くと結構デカイ魚が！船長の手伝いもあって無事に釣り上げると、一同から「ぉおお！」という声。

船長曰く「マグロ（日本語で言っていた）」。これを見てみんな気合いが入る。しかし、その後はぷっつりアタリが来ない。そのうち船長が「次のポイントに行くぞ！（英語だったけど、たぶんそんな感じ）」

と言って碇を引き上げエンジンをかける。船首の高い位置に腰掛けている利用者さんは一瞬ギョッとする。まさか餌取りに行った時のように船首がグーンと上がるほどのスピードは出さないだろうと思ったけれど、海の男は侮れない。同じくらいの速度でグングン進み、船首もぐーっと上がって、一番前に座っていた利用者さんは結構スリルを味わったようだった。

さて次のポイント。アタリはあるものの釣り上げる前に餌を取られることが続く利用者さんも入れば、ピクリとも竿が動かない利用者さんも。「そっちのが良いんじゃないか？」と場所を変えたり、「遠くまで投げ入れたほうが釣れるんじゃないか？」と餌を遠くに投げたりいろいろ。

すると辛抱強く竿に触らずただ見守っていただけの利用者さんの竿に当たりが！（ちなみにさきほど釣り上げた利用者さんです）船長に促され、リールを巻く。隣の利用者さんがガマンできなくなったのか、その竿を奪い（？）釣り上げたのは船長曰く「イサキ」。ただ規定未満の大きさの魚はリリースしないといけないらしく、このイサキは海に戻された（でも 30cm くらいあった感じ）。その後はまたアタリもなく、寂しい感じ。船長がさっき釣り上げたマグロを船尾の台の上でさばいて刺身にしてくれる。キッコーマン醤油とワサビも用意されていて、みんなでご相伴に与かる。ちょっと身は固いけど美味い！白身だけどマグロなのか？とか細かいことは考えず、みんなでパクパク食べる。外人の子ども（ライフセーバーのTシャツを着ていた）も美味しそうに食べていた。ライフセーバーパパは手をつけてなかったので、「どうぞ！」と差し出すと一瞬「うっ」と怯んだようだったけど、「サンキュー」と言って一切れだけ食べた。（刺身を食べる習慣がなかったら悪かったなと後で思った）



刺身で気合を入れなおし、またポイントを移動する。時間的にもうここが最後だろう。でも、やはりしばらくはアタリなし。そろそろ時間か？と思った頃、ライフセーバーパパの竿にアタリが！かなりの強烈な引きで船長とセーバーパパで交代でリールを巻く。船長とセーバーパパの二人がかりでなんとか釣り上げる。かなりデカイ！みんな大喜び！ライフセーバーパパが利用者さんに「持たせてやるから一緒に写真を撮ろう（当然英語で。たぶんそんな感じ）」と言ってくれて、記念撮影。この利用者さんは一番釣りを楽しみにしていたけど、自分では釣れなかった人。セーバーパパも見ていてそれがわかったので、声をかけてくれたんだと思う。釣れた人も釣れなかった人も楽しい思い出になったフィッシングサファリでした。